

平成 28 年度病害虫発生予察特殊報第 4 号

平成 29 年 3 月 30 日
静岡県病害虫防除所長

1 病害虫名 ワサビクダアザミウマ *Liothrips wasabiae* Haga et Okajima

2 発生作物 わさび

3 発生経過及び状況

平成 28 年 9 月、県中部地域の水わさびにおいて葉や根茎に原因不明の黒斑症状が確認された。同年 11 月、静岡大学農学部によって、本症状はアザミウマの一種の寄生によることが明らかにされた。同月、工藤 巖博士によって、本種はワサビクダアザミウマと同定された。なお、平成 29 年 3 月までの調査では、県内他地域での本種の発生は認められていない。

4 海外及び国内での発生状況

本種は海外では知られていない。国内では 1970 年代に中国地方で本種によるわさびの被害が初めて確認され、1983 年に新種として報告された。これまで本種の発生が確認されていたのは島根県、山口県および広島県に限られていた。中国地方では畑わさびで発生が多いが、県内の畑わさびでは、これまで発生は確認されていない。

5 被害

本種の成虫と幼虫は葉、葉柄および根茎を食害し、食害部はやがて黒変する。初期症状は葉と葉柄に黒い斑点（直径 2～5 mm）となって現れる（図 1）。ルーペ等で拡大し観察すると、食害による陥没や、穴が開いている様子を確認できることがある。葉の加害による斑点は葉身基部や葉脈沿いに多い傾向にある。多発すると、黒斑部は互いに融合して株全体に広がる。根茎では水面より上の部分が食害され黒変する（図 2）。畑わさびでは、本種は地下にもぐることから、被害は根茎全体に及ぶ。

6 形態及び生態

- (1) 成虫の体長は約 3 mm、体全体が黒く、腹部末節は長く際立っている（図 3）。幼虫は濃黄色で、頭部および腹部末節は黒褐色～黒色である（図 4）。雌雄が存在する。
- (2) 卵は黄褐色、楕円形（長さ 0.5 mm）で、葉柄基部などの隙間に産み付けられる（図 5）。
- (3) 年間 3 世代ほどを経過するとみられ、特に春から秋にかけて発生量が多くなる。
- (4) 休眠性がないことから、冬期にも卵、幼虫、蛹および成虫の各態が混在する。
- (5) 室内接種では、だいこんやかぶなどにも寄生できるが、自然条件下でわさび以外のアブラナ科植物への本種の寄生は確認されていない。

7 防除対策

- (1) 平成 29 年 3 月現在、わさび田において本種に使用可能な登録農薬はない。
- (2) 水わさびでは水量が不足した場合に発生が増加するため、適切な水位を保つ。
- (3) 発生ほ場で採取した分根苗は本種が寄生している可能性があるため、未発生ほ場に定植しない。

- (4) 植物残さをほ場付近に放置すると野良生えとなり、本種の発生源となる。このため、植物残さは埋めるかビニールで覆って死滅させる。また、ほ場周辺の野良生えのわさびとほ場内のわさびとの間で相互移動する恐れがあるので、野良生えのわさびの除去に努める。
- (5) 発生地周辺では苗床にも侵入している可能性があるので注意するとともに、検品を十分行い本種の寄生のないことを確認してからわさび田に定植する。
- (6) 未発生地において本種と疑われるアザミウマを見つけた場合は、病虫害防除所もしくは伊豆農業研究センターわさび科に連絡する。



図1 葉の被害



図2 根茎の被害



図3 成虫 (体長約3 mm)



図4 幼虫



図5 卵

(図1、3～5：静岡大学提供)

問い合わせ先：	静岡県病虫害防除所	TEL.	0538-36-1543
	伊豆農業研究センターわさび科	TEL.	0558-85-0047